

エリア計画の骨格について

大阪市計画調整局

これまでの経過

(十三駅エリア)

○**新駅の駅位置**の方向性と**駅直上都市開発プロジェクト（仮称）**の始動



○新駅の概略位置を示すととともにキープロジェクトである駅直上プロジェクトの進行などにより、**エリアのポテンシャルが高まっていくことをPRして**、良好な都市開発プロジェクトを誘発していくため、早期にエリア計画 Ver. 1.0 をとりまとめる。

(新大阪連絡線・なにわ筋連絡線の整備計画が確定するまでの間に、検討の深度化に合わせて段階的に充実化)

(淡路駅エリア)

○**柴島浄水場機能集約**の始動



○**新大阪に近接した場所に大規模な開発用地の存在を早期からPR**して、良好な都市開発プロジェクトを誘致していくため、早期にエリア計画 Ver. 1.0 をとりまとめる。

(用地開発が可能となる2032年度までの間に、検討の深度化に合わせて段階的に充実化)

第3回新大阪駅周辺地域まちづくり検討部会（R5.12.21）

- ・ 良好な都市開発プロジェクトを誘発していくため、早期にエリア計画 Ver. 1.0 をとりまとめる

検討体制の組成

第4回新大阪駅周辺地域まちづくり検討部会（R6.2.14）※書面開催

- ・ 十三駅エリア計画策定検討会、淡路駅エリア計画策定検討会の設置

検討会においてエリア計画の骨格について検討

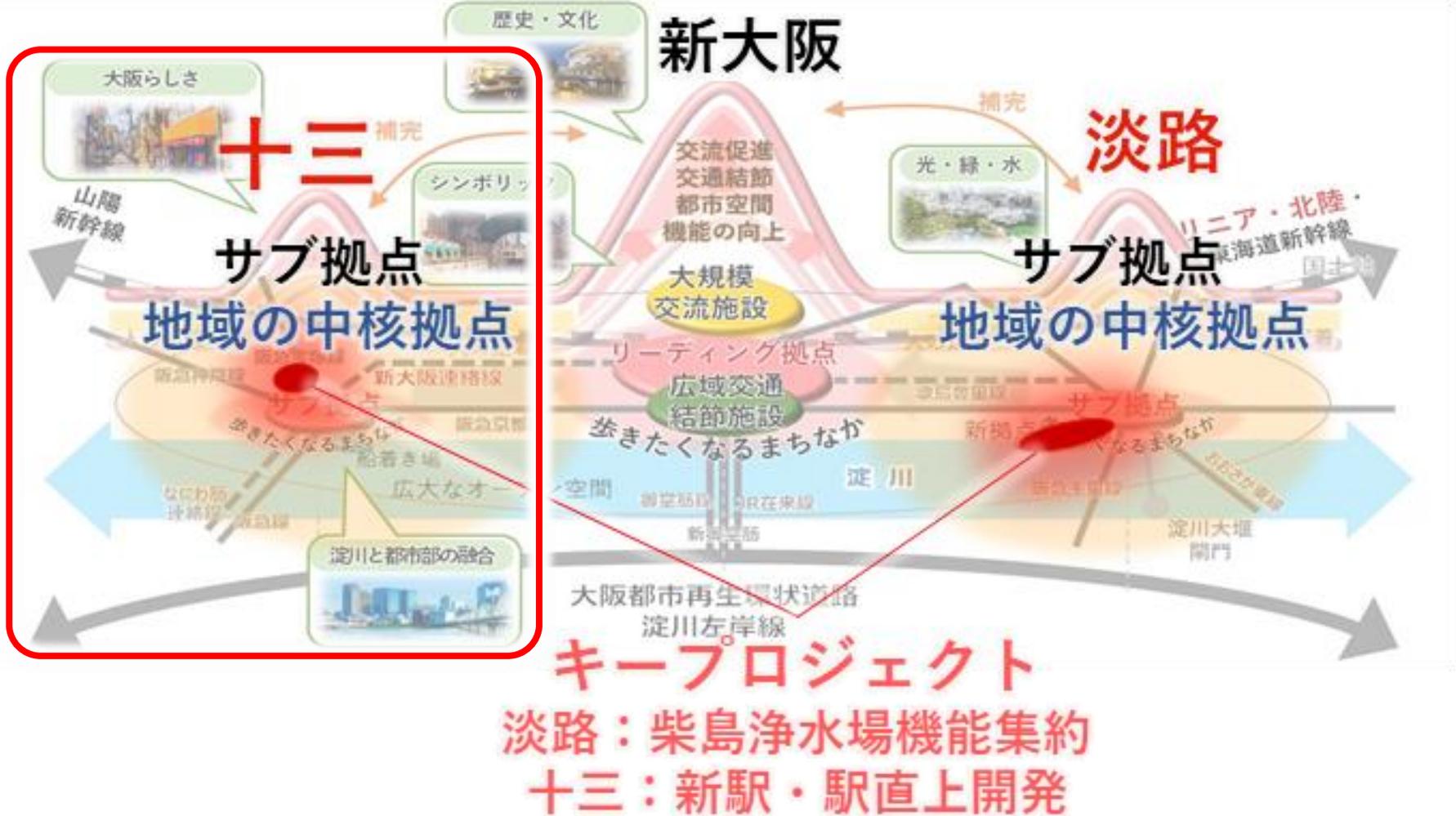
第5回新大阪駅周辺地域まちづくり検討部会（R6.8.28）

- ・ エリア計画の骨格について確認

十三駅エリア計画の骨格

エリアの位置づけと役割

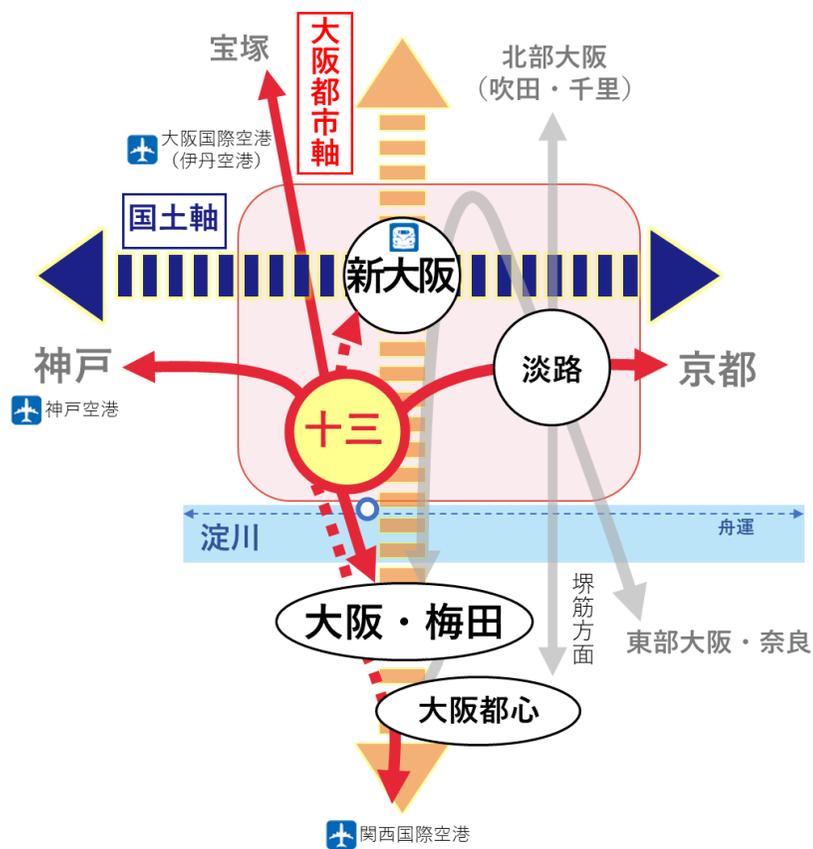
- 新大阪駅周辺地域のサブ拠点
- 地域のまちづくりにおける中心的な拠点



エリアのポテンシャル

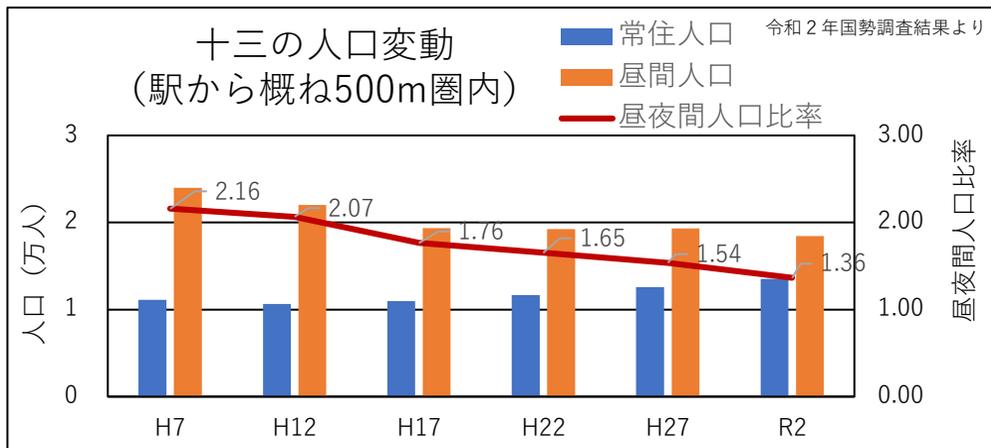
○交通利便性

- ▶ 既存3線により、梅田、神戸、宝塚、京都の各方面へのアクセスが可能
- ▶ 新線整備に伴い、空港・新幹線駅へのアクセス性、
大阪駅周辺・新大阪駅エリア・大阪都心エリアへの近接性が向上



エリアの現状

- **商業、業務等**としての役割が大きい（土地利用、昼夜間人口比率より）
- 十三駅周辺に商店街が立地し、地域独特の界限性を有している
- ものづくり産業が数多く立地
- もと淀川区役所跡地等活用事業（図書館、学校、住宅）、舟運を含めた淀川河川敷十三エリア魅力向上事業等が進行中
- **新大阪連絡線及びなにわ筋連絡線**が計画中で、十三には**新駅**が予定されている
- まちの文化的意識向上をめざす取組み、様々な人や文化の交流が生まれる場の創出に向けたイベント等の開催



淀川アーバンフロント



淀壁



まちづくりの大きなコンセプト

- 交通利便性の高さや新線整備に伴うアクセス機能向上・梅田や新大阪への近接性向上等の効果を活かして、3つの機能（交流促進、交通結節、都市空間）を導入・集積し、**拠点性のさらなる向上**を図る。
- 十三駅エリアの特色を活かし、進行中の都市開発プロジェクトと連携し、多様な機能導入を図る。
- あわせて、歩行者ネットワークのさらなる強化やオープンスペースの確保に努め、回遊性向上等の地域課題への対応を図ることによって、**エリア一体となった価値向上**をめざす。

基本的な進め方

都市機能の向上を図るゾーンを定め、ハード・ソフト両面の取組みを展開

都市機能の向上を図るゾーン

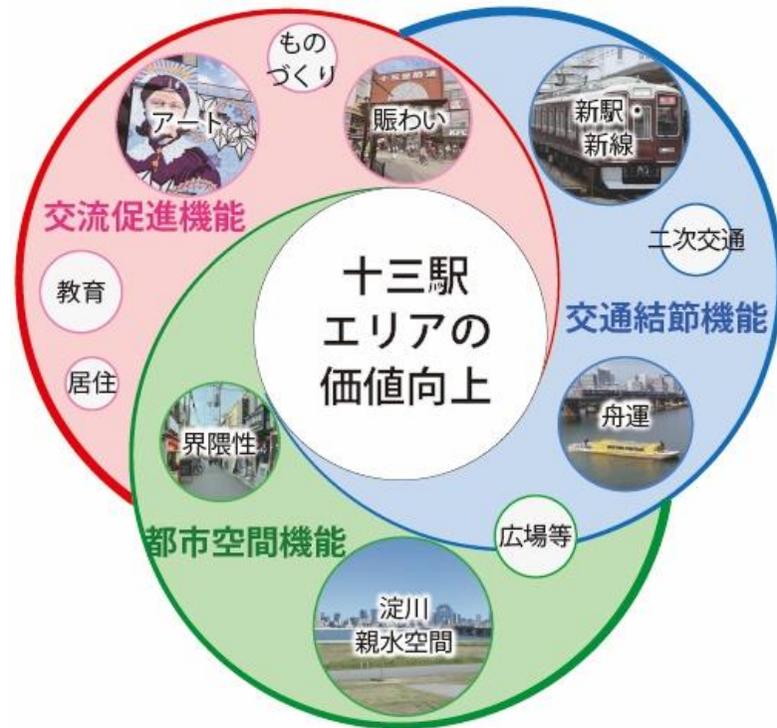
- 新大阪駅から人の流れを呼び込み周辺に広げるエリア
- 特に十三駅からの徒歩圏（約500m圏）

駅まち一体の空間づくり（ハード整備）

- ・新駅を中心に機能集積及び周辺ネットワークの改善・周辺への多様な機能導入・検討

人と人をつなぎエリアの活性化を図る取組み（ソフト施策）

- ・ハード整備と連携した取組みの検討



3つの主要プロジェクト

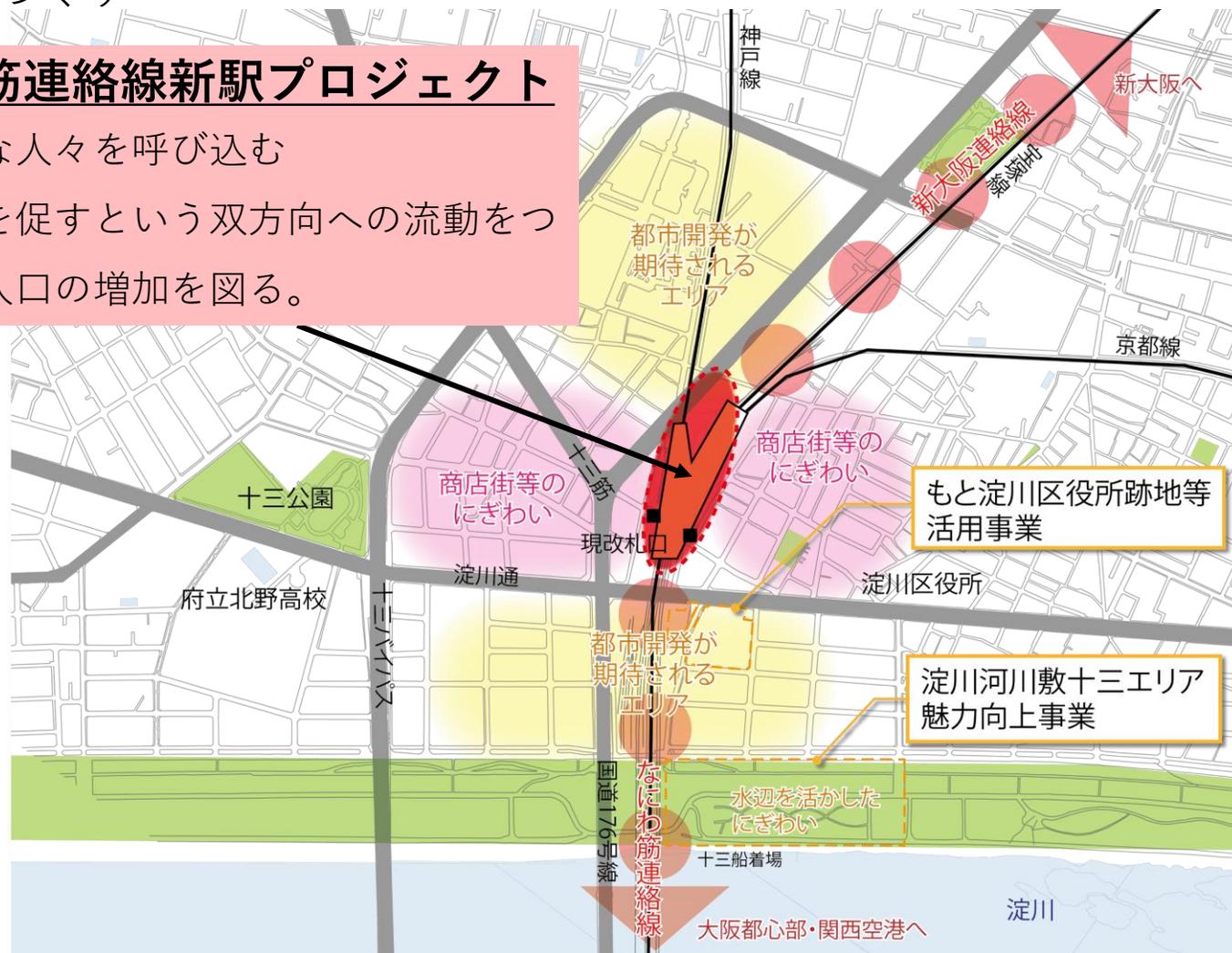
(1) 新大阪連絡線・なにわ筋連絡線新駅プロジェクト

(2) 駅周辺一体整備プロジェクト

(3) エリア全体におけるまちづくり

(1) 新大阪連絡線・なにわ筋連絡線新駅プロジェクト

- 新線の新駅整備により、多様な人々を呼び込む
- 周辺地域や関西広域にも回遊を促すという双方向への流動をつくりだし、関西全体での交流人口の増加を図る。

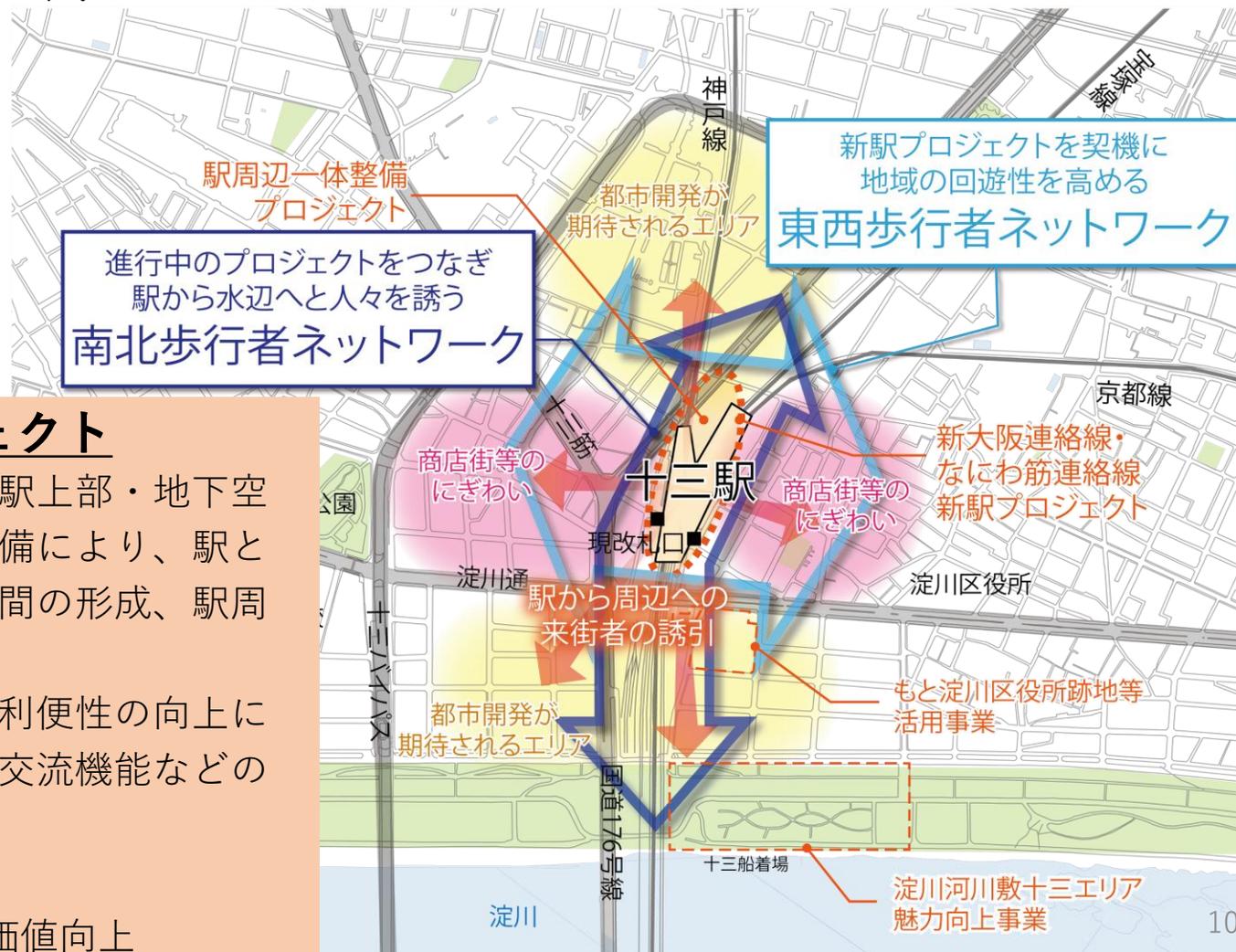


3つの主要プロジェクト

(1) 新大阪連絡線・なにわ筋連絡線新駅プロジェクト

(2) 駅周辺一体整備プロジェクト

(3) エリア全体におけるまちづくり



(2) 駅周辺一体整備プロジェクト

- 新駅プロジェクトに合わせた、駅上部・地下空間、駅周辺やインフラの総合整備により、駅とまちが一体となった人中心の空間の形成、駅周辺の回遊性の向上。
- 駅利用者や来訪者・地域住民の利便性の向上に資するような機能、広場機能、交流機能などの導入

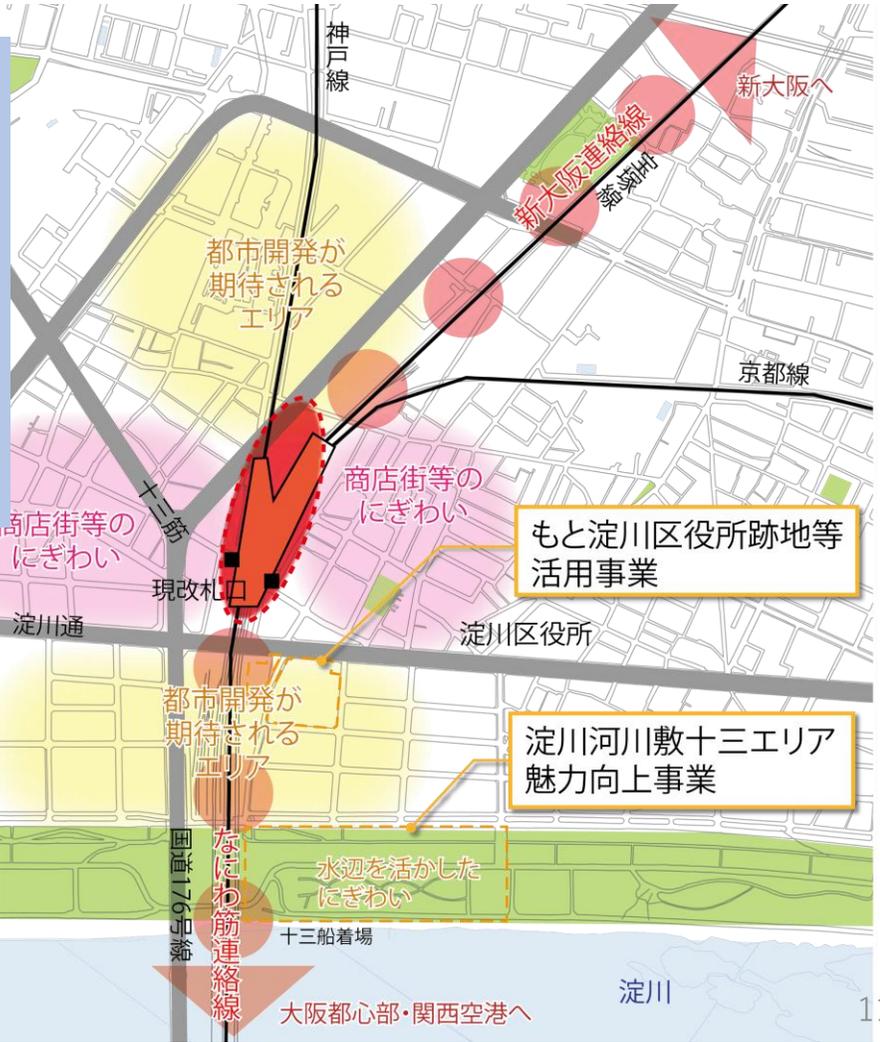
エリアのさらなる魅力向上、価値向上

3つの主要プロジェクト

- (1) 新大阪連絡線・なにわ筋連絡線新駅プロジェクト
- (2) 駅周辺一体整備プロジェクト
- (3) エリア全体におけるまちづくり

(3) エリア全体におけるまちづくり

- 他2つのプロジェクト、進行中の都市開発プロジェクトと連携しつつ、十三駅周辺の特徴を踏まえた多様な機能導入に向けて検討を深めていく。
- 十三駅周辺にはまとまった開発用地が乏しいため、リノベーション等を行う際の機能導入も想定して上記検討を行う。



▲淀川区HP：
第6回淀川河川敷十三エリア魅力向上協議会を開催しました
「第6回淀川河川敷十三エリア魅力向上協議会資料」より

▶淀川区HP：
もと淀川区役所跡地等活用事業の事業予定者が決定しました
「全体計画について」より



ソフト施策の検討

ソフト施策として、多種多様な取組みや実施主体について検討を進める

【検討の視点】

駅まち一体の空間づくり（ハード整備）との連携
これまで地域で進められてきた取組みを踏まえた検討

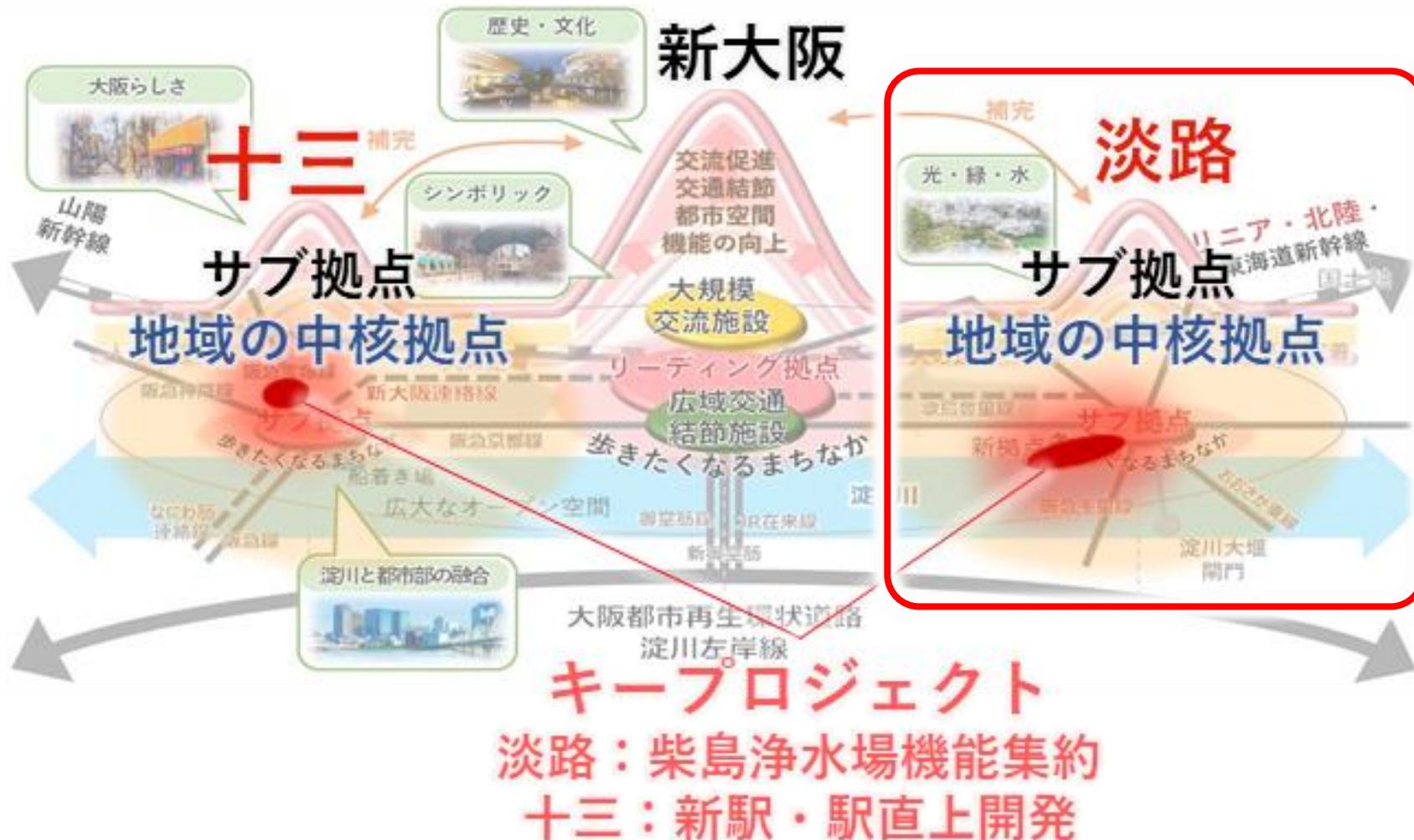
快適で質の高い空間の創出

エリアの活性化

淡路駅エリア計画の骨格

エリアの位置づけと役割

- 新大阪駅周辺地域のサブ拠点
- 地域のまちづくりにおける中心的な拠点



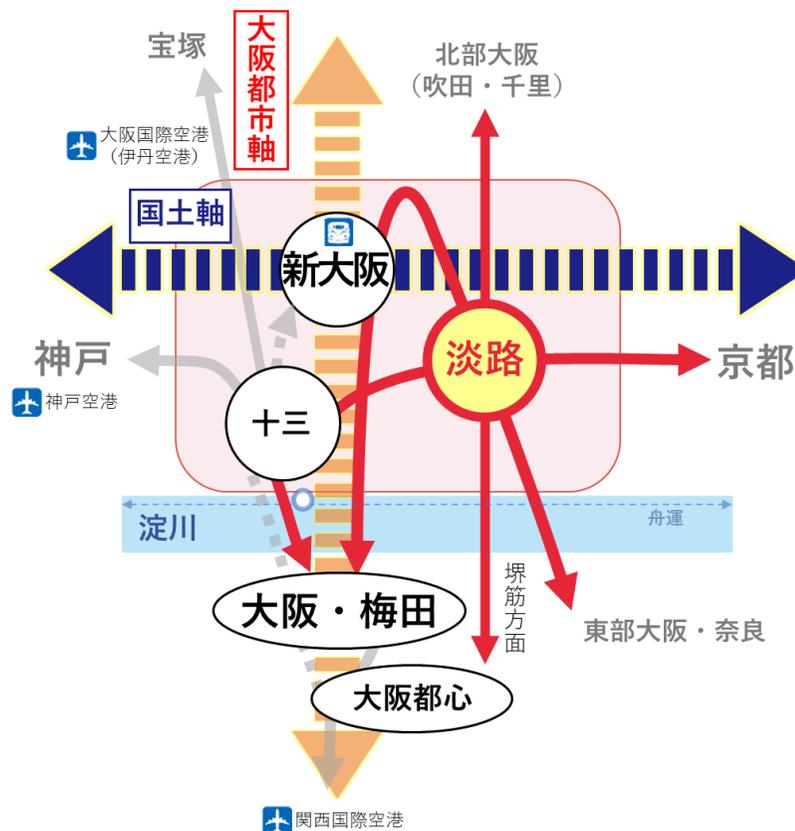
エリアのポテンシャル

○交通利便性の高さ

- ▶ 新幹線駅と鉄道や事業中の歌島豊里線でつながり近接性が高い
- ▶ 4つの鉄道駅※が集積し、梅田、京都、北部大阪、奈良など各方面へのアクセスが可能

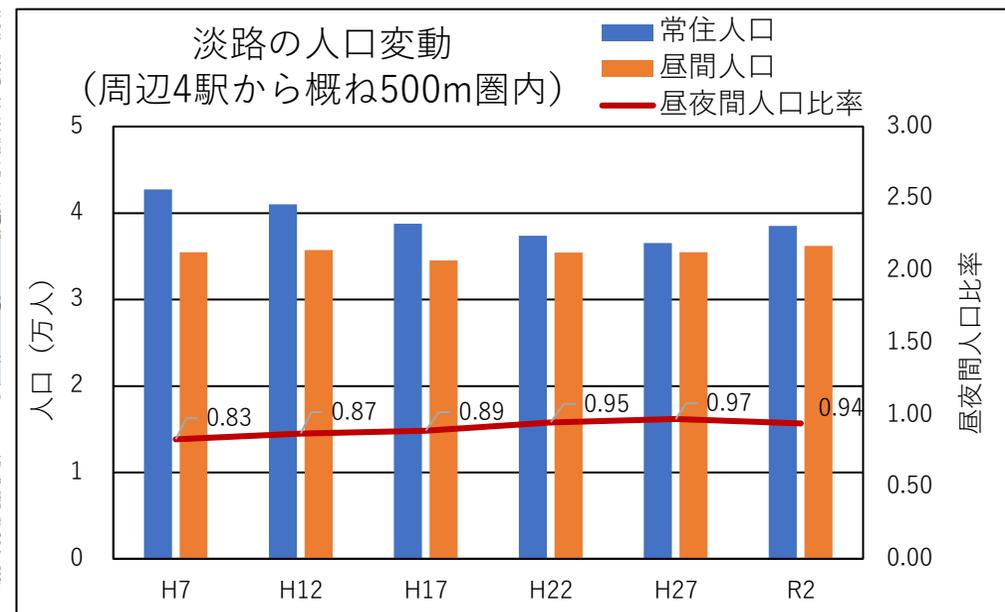
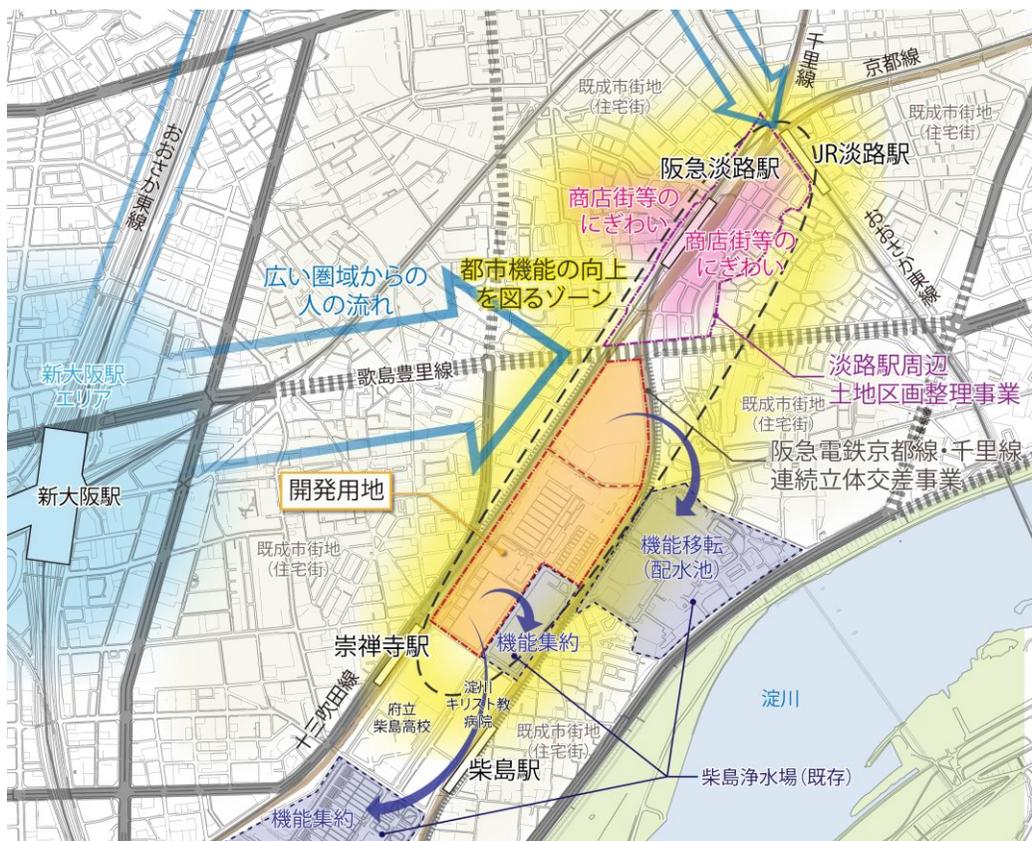
○広大な開発用地（柴島浄水場上系用地）を有している

※淡路駅エリア内に位置する、
JR淡路駅、阪急淡路駅、崇禅寺駅、柴島駅



エリアの現状

- 住宅地**としての役割が大きい（土地利用、昼夜間人口比率より）
- 淡路駅周辺には商店街があり、にぎわいを形成
- 連続立体交差事業、土地区画整理事業、都市計画道路などが事業中
- 柴島浄水場の機能集約**が計画中

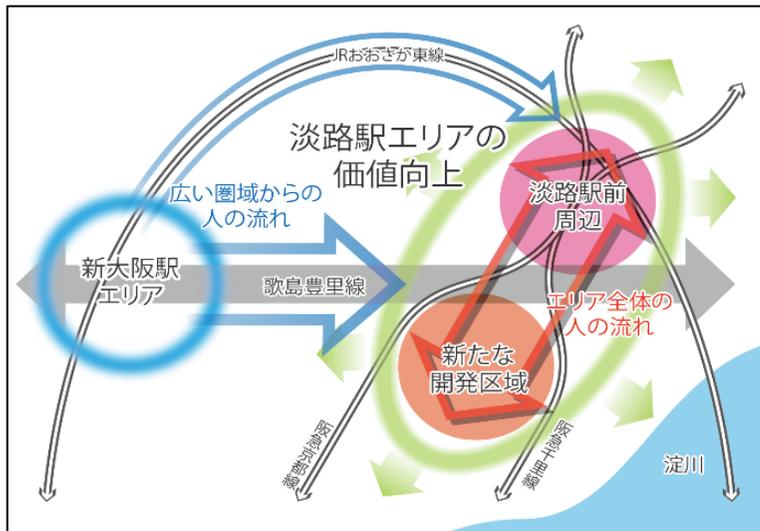


まちづくりの大きなコンセプト

- 交通利便性の高さ と 広大な将来開発用地を活かして、
3つの機能（交流促進、交通結節、都市空間）を導入・集積し、**拠点性のさらなる向上**を図る
- エリア全体の人の流れを強化**して、新たな開発と駅周辺のにぎわいと連携による相乗効果を図り、エリア全体としての価値向上につなげる。
- 来訪者や地域住民にとって魅力のある、
駅まち一体となった**人中心の居心地のよい空間づくり**をめざす

基本的な進め方

都市機能の向上を図るゾーンを定め、ハード・ソフト両面の取組みを展開



都市機能の向上を図るゾーン

- エリア内4駅の周辺
- 各駅に囲まれた将来開発用地とその周辺

駅まち一体の空間づくり（ハード整備）

- ・ 新たな機能集積による拠点性の向上
- ・ にぎわいを広げるネットワークの形成

人と人をつなぎエリアの活性化を図る取組み（ソフト施策）

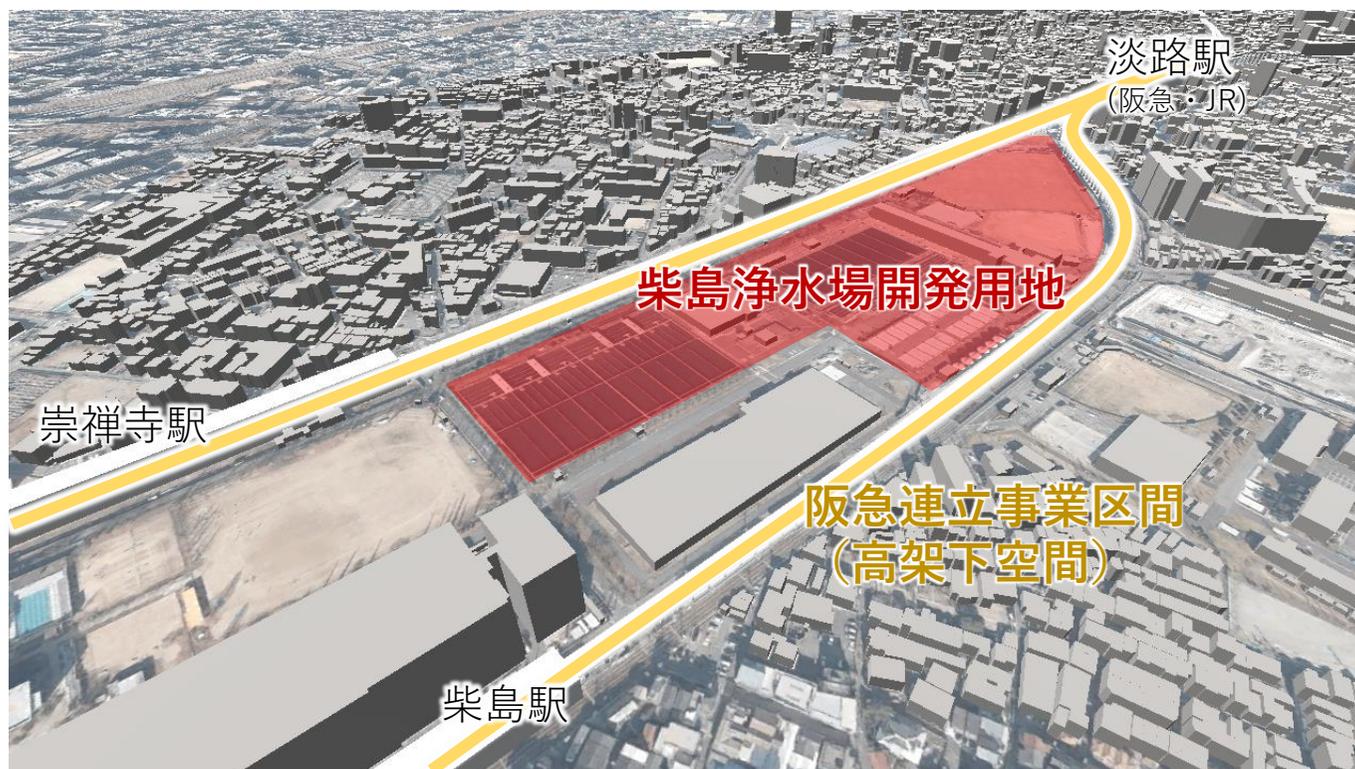
- ・ ハード整備と連携した取組みの検討

新たな機能集積による拠点性の向上

将来開発用地において土地を高度利用し、
駅からまちへ人を呼び込み、にぎわいのさらなる創出を図る。

エリア全体の価値向上や持続可能なまちづくりの中心的な役割を担う

- (1) 柴島浄水場開発用地プロジェクト
- (2) 阪急連立関連開発プロジェクト



新たな機能集積による拠点性の向上

将来開発用地において土地を高度利用し、
駅からまちへ人を呼び込み、にぎわいのさらなる創出を図る。

エリア全体の価値向上や持続可能なまちづくりの中心的な役割を担う

(1) 柴島浄水場開発用地プロジェクト

(2) 阪急連立関連開発プロジェクト

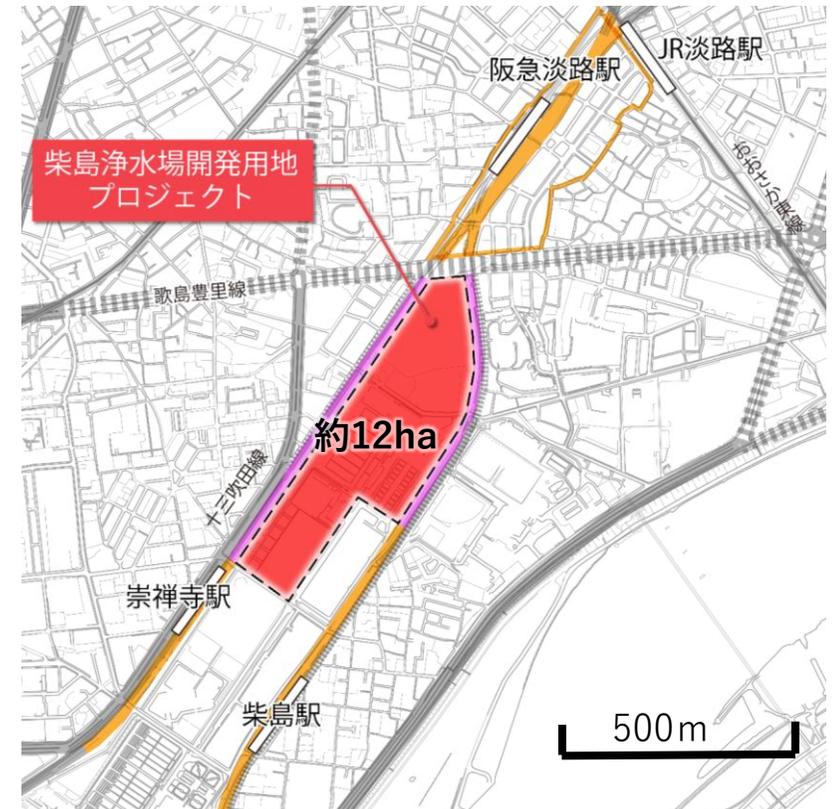
(1) 柴島浄水場開発用地プロジェクト

- 多種多様な機能導入による高度利用
- グランドレベルでの人中心の空間づくり

駅からまちへ人を呼び込む
快適な環境づくりを図る

【機能導入の例】

- 民間都市開発における大規模集客施設、業務・商業、住宅などの機能
- 人々の交流や防災に資する、広場・滞留空間などのオープンスペース



新たな機能集積による拠点性の向上

将来開発用地において土地を高度利用し、
駅からまちへ人を呼び込み、にぎわいのさらなる創出を図る。

エリア全体の価値向上や持続可能なまちづくりの中心的な役割を担う

- (1) 柴島浄水場開発用地プロジェクト
- (2) **阪急連立関連開発プロジェクト**

(2) 阪急連立関連開発プロジェクト

- 連続立体交差事業の完了により生まれる高架下空間などの活用

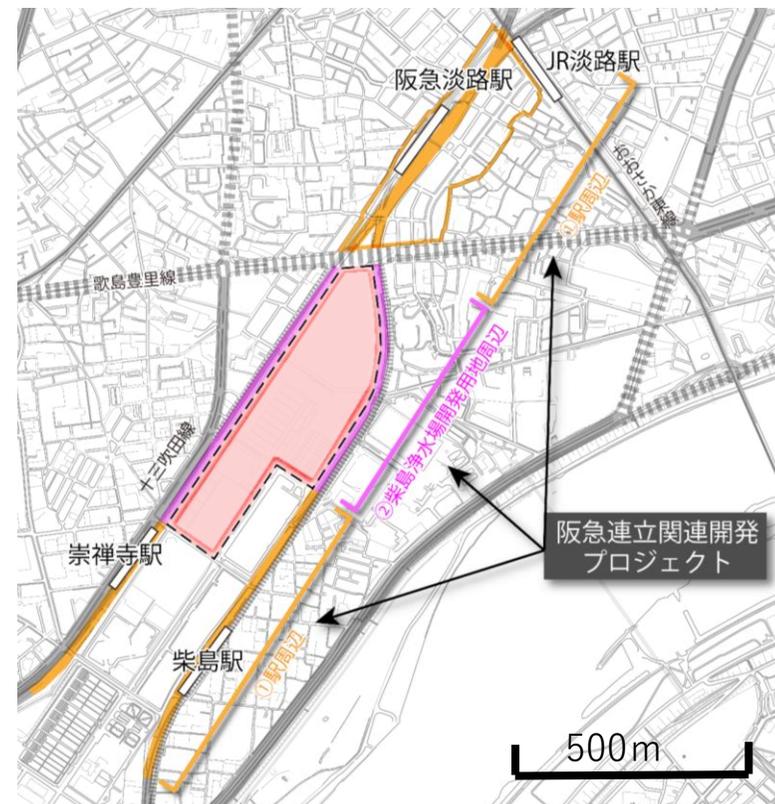
エリア価値の向上と地域ニーズへの対応を図る

① 駅周辺

- ・ 駅直結を活かした機能集積
- ・ 駅利用者の利便機能

② 柴島浄水場開発用地周辺

- ・ 柴島浄水場開発用地との連携
- ・ 一体性・連続性の確保



にぎわいを広げるネットワークの形成

- エリア全体の回遊性向上による新たな開発区域と駅周辺（商店街など）との連携強化
- 新大阪駅など近接するエリア間の連携強化

エリア全体の魅力向上

- (1) 駅まち一体歩行者空間形成プロジェクト
- (2) 道路交通ネットワーク形成プロジェクト

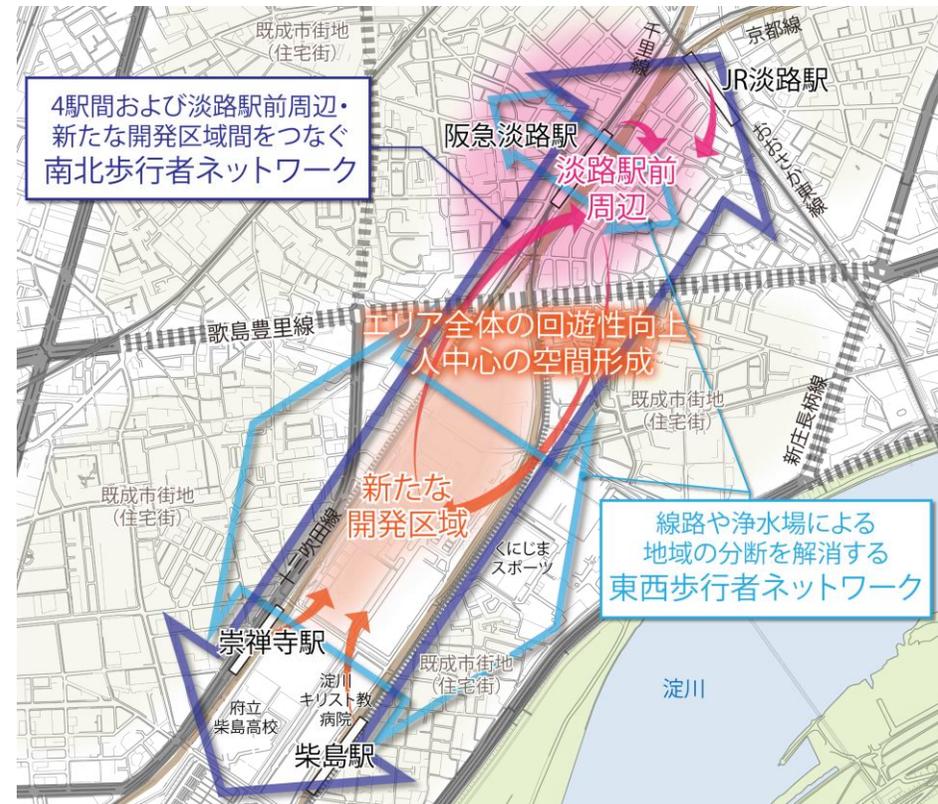
(1) 駅まち一体歩行者空間形成プロジェクト

- 4駅や、淡路駅周辺、新たな開発区域をつなぐ歩行者ネットワークの整備
- グランドレベルでの公共空間と民間敷地が一体となった人中心の空間形成

駅からまちへの人の流れや、人が滞留できる空間を生み出し、エリア全体の魅力向上を図る

【主な検討項目】

- 周辺駅や駅前商店街、将来開発用地を結ぶ動線（南北、東西方向のネットワーク）
- グランドレベルの魅力ある人中心の空間形成



にぎわいを広げるネットワークの形成

- エリア全体の回遊性向上による新たな開発区域と駅周辺（商店街など）との連携強化
- 新大阪駅など近接するエリア間の連携強化

エリア全体の魅力向上

- (1) 駅まち一体歩行者空間形成プロジェクト
- (2) **道路交通ネットワーク形成プロジェクト**

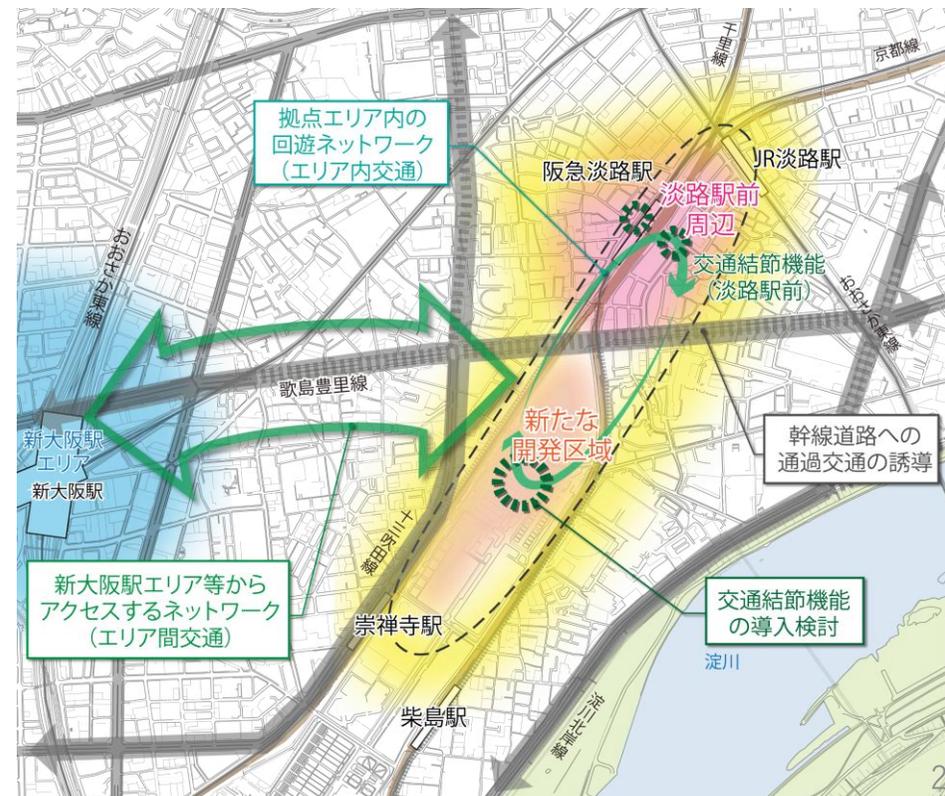
(2) 道路交通ネットワーク形成プロジェクト

- 周辺の主要道路と柴島浄水場開発用地内の道路の一体的な機能発揮

エリア内・エリア間のアクセス性の充実化、
通過交通の抑制によるエリア内の快適性向上

【主な検討項目】

- 広大な開発エリアを含むエリア内の回遊性向上（エリア内交通）
- 新大阪駅エリアからのアクセス機能向上（エリア間交通）
- 広域・地域交通の拠点としての交通結節機能
- 通過交通の抑制によるエリア内の快適性・安全性の向上



ソフト施策の検討

ソフト施策として、多種多様な取組みや実施主体について検討を進める

【検討の視点】

駅まち一体の空間づくり（ハード整備）との連携
これまで地域で進められてきた取組みを踏まえた検討

快適で質の高い空間の創出

エリアの活性化

今後の進め方

第5回新大阪駅周辺地域まちづくり検討部会（R6.8.28）

- ・ エリア計画の骨格について確認

- ・ 地域の意見を踏まえたブラッシュアップ
- ・ 関係者間での協議、調整



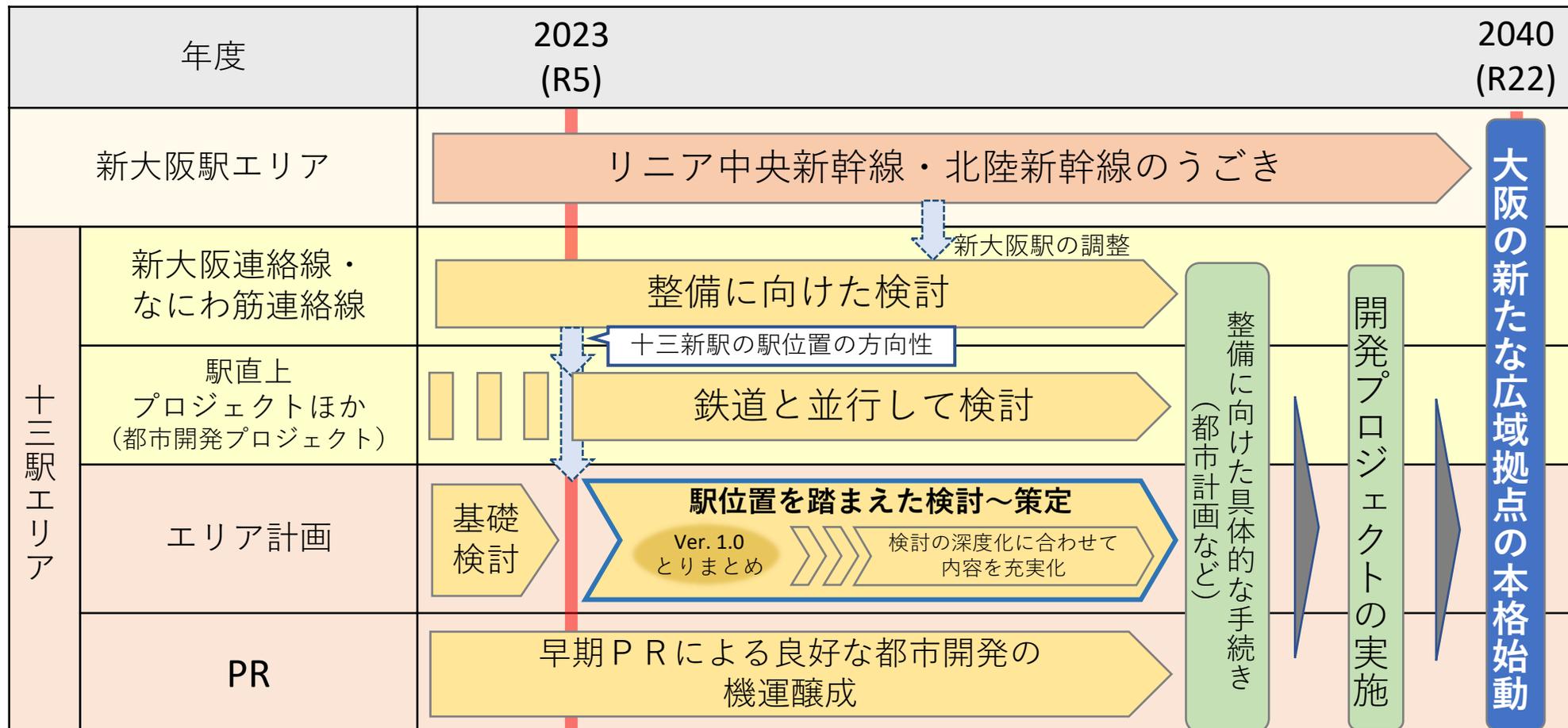
エリア計画（案）の作成

第〇回新大阪駅周辺地域まちづくり検討部会（R6年度末目標）

- ・ エリア計画（案）について確認

参考

十三駅エリアのまちづくり



淡路駅エリアのまちづくり

